

ビール大麦「アスカゴールデン」の良質安定栽培法の実証

要約

ビール大麦「アスカゴールデン」について、播種量を6.5kg/10aに設定した区（以下、供試区）、播種量を7.5kg/10aに設定した区（以下、対照区）を設置し、播種量の検討を行った。供試区において穂数は十分に確保され、対照区と比較して収量は同程度であり、倒伏程度もやや軽かった。これらのことから、アスカゴールデンでは播種量6.5kg/10aが適している。

○ 展示のねらい

ビール大麦「アスカゴールデン」は、平成27年産より管内一部地域で本格的に栽培が開始されている。しかし、現状の播種量は適正な播種量を上回っていることから、サチホゴールデンに比べ穂数が多くなり、一穂粒数が確保できず収量が低下している実情にある。そこで、適切な播種量について検討し、収量・品質の安定に関する栽培法を実証する。

- ・ 展示内容
 - 播種日 : 11月7日
 - 前作 : 二条大麦
 - 施肥量 : BB. ビール麦エース 40kg/10a(窒素量5.6kg/10a)
 - 土壌改良材 : 10月下旬 生石灰 40kg/10a
 - 畝間 : 21.3cm
- ・ 具体的目標
 - 収量 : 400kg/10a
 - 粗タンパク含量 : 10.0～11.0%

○ 主な成果

表1 生育調査

	出穂期	成熟期				
		成熟日	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	倒伏程度
供試区	4月17日	5月29日	104	6.1	826	2.7
対照区	4月17日	5月29日	103	5.7	1,134	3.1

- (1) 出穂期・成熟期は供試区と対照区で差はなかった。供試区において、穂数は十分に確保され、倒伏程度も対照区に比べてやや軽かった。

表2 収量・品質調査

	子実重 (kg/a)	整粒重 (kg/a)	整粒歩合 (%)	粗タンパク含量 (%)	千粒重 (g)
供試区	60.5	58.7	97.1	10.1	40.2
対照区	61.5	59.0	95.9	10.0	38.4

- (1) 子実重及び整粒重は、供試区と対照区ほぼ同程度であった。整粒歩合に関しては、供試区が対照区に比べ1.2ポイント高い結果になった。粗タンパク含量は、供試区と対照区とも10%程度であり、両区とも目標とする適正な粗タンパク含量となった。

○ 今後の方向性

今回の結果について、JA等の栽培講習会等で活用する。特に、播種量が適正量を上回ると、減収・倒伏の影響があることを考慮した栽培指導を行う。

実施機関 : 河内農業振興事務所経営普及部 実施場所 : 上三川町

問合せ先 : 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315